

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	123芸術・文化の振興		
施策のねらい(めざす姿)	地域に根ざした市民文化が創造され、その活動が広く展開されています。また、歴史、文化遺産が適切に保存、継承され、周知・活用されています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	マネージャー氏名	小松崎 佳之

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	芸術文化の発表機会、鑑賞機会を引き続き提供するとともに、より効果的、効率的に達成できるよう指定管理者制度の導入を目指す。また、新たに指定した文化財の周知を行う。	③改革・改善内容	芸術文化への関心を高め、活動人口を増やす取組みを実施する。また、文化財を次世代に引き継ぐため、文化財の保護を推進し、積極的な活用を行う。
②①に基づく取組み結果	令和元年度は市民文化祭、鑑賞教室を実施、令和2年3月からきらりホールに指定管理者制度を導入し、文化活動の推進に取組んだ。また、国登録有形文化財の申請を行い、2か所5件の登録を進めた。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	①市民 ②文化財	意図(対象をどうするのか)	①地域に根ざした市民文化が創造され、その活動が広く展開されている。②歴史・文化遺産が適切に保存・継承されるとともに周知・活用されている。
②施策の概要	芸術・文化の振興を図るため、芸術鑑賞の機会を提供するとともに、文化創造事業を市民との協働により実施する。歴史・文化遺産を適切に保存・継承するとともに、教育普及を図るため市民との協働による国史跡周知普及事業や、歴史・遺跡に関する企画展、講座等を実施する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	①芸術・文化にふれる機会や発表する機会へのニーズが高く、きらりホールの指定管理者導入に伴い、民間業者のノウハウを活用した更なる市民サービスの向上が見込まれる。②地元の歴史や文化財への関心が高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	令和元年度は、文化振興事業、きらりホール自主事業、郷土資料館展示・講座、国史跡周知事業及び埋蔵文化財発掘事業などを通じて、市民に文化や文化財にふれる機会を提供した。令和2年度は、中止の事業が多くあったが、実施の仕方の見直しを行うことで、引き続き実施できた事業もある。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	市民文化祭等市主催芸術文化事業参加・発表者数	人	1,352	1,341	0	2,800
	ii	指定文化財数	件	32	32	32	32
	iii						
③基本事業成果指標	i	市民文化祭参加団体数	団体	115	117	0	138
	ii	きらりホール自主公演観覧者数	人	4,545	3,133	2,639	4,200
	iii	きらりホール自主公演市民協力者数	人	83	97	72	100
	iv	市史等刊行図書数	点	58	0	0	60
	v	調査・収集した資料点数	点	88,100	92,557	94,759	71,500
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)		令和3年度予算		
事業費(千円)	239,881	234,148	(単位:円) 2,140 円		231,561		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	芸術文化の活動人口が減少していることから、文化振興事業やきらりホール自主事業を通じて、芸術文化への興味関心を高める必要がある。また、市の文化財を次世代に引き継ぐため、文化財の指定や登録を進め、さらに市民に親しまれる史跡等の整備が求められる。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	令和2年は、新型コロナウイルス感染対策により中止した事業が多く、目標値に達していないが、それ以前から、高齢化などで芸術文化活動人口が減少傾向にある。文化財の指定や資料調査については引き続き進めていく。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	芸術文化活動の人口を増やすための取組が必要であるため、引き続き文化振興事業、適切なきらりホールの管理運営を行っていく。また、文化財を次世代に引き継ぐための施策について具体的な計画をたてて進めていく。
③特に重点化する事務事業	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業